

自転車であちづくり & 健康づくり

健康志向や環境意識の高まりによって、自転車ブームになっているようです。

自転車産業振興協会によれば、日本の自転車利用人口は約7500万人。そのうち、主に移動手段として利用する「一般層」が7000万人とその大部分を占めるものの、健康のためにサイクリングを楽しむ「スポーツサイクリスト層」が300万人、レースやトレーニングを楽しむ「アスリート層」が30万人いるといわれています。今、全国各地で自転車を使ったまちおこしの事例が増えてきています。

◎イベント開催によるまちおこし

健康ブームを追い風に競技人口が増加傾向にある自転車イベントを実施し、参加者に観光名所を宣伝するなど、まちおこしに利用するケースが全国各地で増えています。

自転車イベントには、大きく分けて「レース」「ロングライド」「エンデューロ」「ヒルクライム」の4つのタイプがあります。

《レース》 順位を競い合いながら、勝ち負けを決めるタイプのサイクリイベント。《ロングライド》 長距離を走って完走を目指したり、完走したタイムを楽しむイベント。多くは景色のいい場所を走ることで、旅気分を味わえることも魅力。

《エンデューロ》 仲間とチームを組んで交代しながら一定時間を走り、総走行距離をチーム間で競い合うイベント。

《ヒルクライム》 スタートからゴールまで上りだけのコースで行われるイベント。ここ数年で自転車イベントの開催数も参加者数も増加しており、まちのPRにもつながっているようです。

※各地の大会は「スポーツエントリー」(<http://www.sportentry.ne.jp/>)などのWebサイトで検索・参加申込みができません。



自転車イベントのポスター

◎サイクリストを呼び込む工夫

一時的な集客を狙うイベントだけでなく、日常的にサイクリスト(自転車愛好家)を呼び込むためのさまざまな取り組みも各地で行われています。

《しまなみ海道》

まず最初に、サイクリストの間では「聖地」とも呼ばれるほど人気の高いサイクリングコースになった「しまなみ海道」での取り組みを紹介します。

瀬戸内海の8つの島々を縦断し、愛媛県今治市と広島県尾道市を結ぶ全長約70キロの「しまなみ海道」。本州と四国にかかると3本の連絡橋のうち唯一、自転車でも走行できる道路があります。

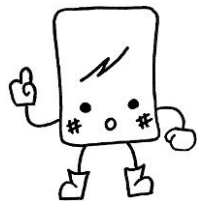
出発地点となる本州側・尾道駅前、四国側・今治駅前をはじめとして、途中の島々も含めて15か所のレンタサイクルターミナルがあり、大人1日500円で自転車を借りることができます。自転車は、どのターミナルでも返却可能です。(ただし、補

償金1000円は、借りたターミナル以外で返却した場合は返ってきます。)

およそ40か所の民宿や飲食店、お寺などに協力を求め、「サイクルオアシス」が設置され、ここでは、休憩所やトイレ、空気入れなどを無料でサイクリストに提供しています。

道路には途中で道に迷わないように、メインルート沿いに青い線を引き、最終地点までの距離も表示されています。このブルーラインをたどれば、最短距離で楽に瀬戸内海を渡ることができるのです。

その他、パンクや怪我などトラブル時のサポートを行う「しまなみ島走レスキュー」、「ポタリング(自転車散歩)」「ガイドツアー」など、さまざまな取り組みが、地元の人たちの協力で行われています。



《栃木県那須町》

那須町を楽しく安全にサイクリングしてもらうために、「那須サイクルピット」と呼ばれる施設が100か所以上あります。「サイクルピット」とは、サイクルスタンド(軽量化のため、スタンドの付いていない競技用自転車のサドルを引っ掛けて置いておくための場所)、空気入れ、パンク修理キットを装備したレジャー施設、宿泊施設、飲食店などのことです。

サイクリストを呼び込んで、地域を活性化しようと、さまざまな方が協力し、サイクルピットの数はまだまだ増えているそうです。

◎上関町でも自転車のインフラ整備を

柳井市や平生町から上関町につながる

海岸線は、風光明媚な景色が続き、道路も比較的整備され、車の交通量も市街地に比べると少ないため、自転車でも走りやすく、サイクリストには人気のコースです。

さらに、室津には「道の駅 上関海峡」や「鳩子の湯」があり、サイクリストを呼び込む材料はかなりそろっています。那須町のサイクルピットのような施設を



「道の駅 上関海峡」に設置されているサイクルスタンド

また、「道の駅 上関海峡」でレンタサイクルを貸し出すサービスを始めてもいいと思います。道の駅を拠点として、室津界隈を巡ったり、上関大橋を渡って、上関方面に少し足を延ばしてもらえば、レジャー的な要素もあり、小回りの利く自転車を利用するのも有効な方法だと思います。

祝島では、数年前から自治会でレンタサイクルを貸し出しており(料金は1日300円)、旅行者の皆さんからは大変喜ばれています。ただ、年を重ねるごとに整備の行き届いていない自転車も増えてきているので、メンテナンスをしたり、少しずつ新しい自転車に入れ替えていくことも必要ではないでしょうか。



祝島自治会が運営するレンタサイクル「チャリンコハウス」

◎「わいわいタイムス」11月号は11月1日(日)発行予定です。